

2011 年

## 9 月 16 日（金曜日） 住民や地域が主役の循環型社会へ - 「循環型社会みんなで考える市民フォーラム」 -

本日、NPO 法人エコネット丹後さんが主催され清掃業協会の皆さんはじめ関係者の皆さんがご尽力されて「循環型社会みんなで考える市民フォーラム」が開催され、龍谷大学の竺教授のご講演やパネルディスカッションなどが行われ、これからの循環型社会について 400 名以上の市民の皆さんとともに意見や情報の交換が行われました。

本年、発生した東日本大震災に端を発した福島第一原子力発電所の重大事故は、決してあってはならない事態であった訳ですが、その後の諸経過等総合的な状況を踏まえ、今や我が国エネルギー政策の転換は国家的な喫緊の課題であります。目指すべき日本社会の方向として、再生可能エネルギーの推進の重要性とともに、エネルギー消費型の社会のあり方について、産業発展の問題とともに、真の豊かさとは何かといった視点も含めて、社会の構成員である我々一人ひとりが、総合的かつ真剣に考え、行動していくことが求められています。

さて、本市では、まちづくりの柱の一つとして「暮らしの中で命が輝く環境循環都市」を掲げ、平成 19 年には「京丹後市バイオマスタウン構想」を策定し、家庭や事業所からの生ゴミ等をバイオマス発電や液肥等として利活用することや林地残材や竹材をバイオマスプラスチックに転換する民間事業の支援等広く関連の取組みを行っています。また、本日のフォーラムを主催いただいているエコネット丹後さんには、この構想の一環である廃食用油の回収リサイクルをはじめ様々な地域資源や環境の保全、循環に資する活動を展開され、本市の環境循環のまちづくりを核になって引っぱっていただいでいて、心から感謝をする次第です。

このような中、本市はそもそも、海山里の素晴らしい自然環境に恵まれたまち。風や森林バイオマスはじめ自然エネルギーの卵の宝庫です。そして、今後その推進が国家的に希求されるべき再生可能エネルギーの特色こそは、地域固有の環境に大きく由来し、また、日常の生活の様々な接点、局面で生み出されうるエネルギーであり、その意味で、電気事業者とともに地域や住民が生産の主役になりうる、地域発・住民発のエネルギーともなりうるのです。

今、国においても再生エネルギー買取法案の成立をはじめエネルギー政策の抜本的な見直しと再生エネルギーの推進が本格化する中で、今こそ、自然環境や社会環境に恵まれた本市の特色をいよいよ活かして、地球に優しく、まちの未来を支え導くような、環境循環都市へのまちづくりを、地域と住民の皆さんがますます主役となって築きあげていただきたいと思ひますし、まちの豊かな未来づくりに行政も全力を尽くしてまいりたいと思ひています。